

学校コード F113310104009

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

届出

注2

東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人青葉学園
令和4年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	和歌山事務部
職名・氏名	フチヨウホ サ アラキ ユウスケ 部長補佐 荒木 祐介
電話番号	073-435-5819
（夜間）	073-435-5819
e-mail	wakayama-jimu@thcu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

<和歌山看護学研究科>

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	23

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒640-8269

和歌山県和歌山市小松原通四丁目20番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和3年4月)	任期満了のため変更、 令和3年4月1日(3)
研究科長	(ヤシマ タエコ) 八島 妙子 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
和歌山看護学研究 看護学専攻 修士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	2 年	12 人	0 人	24 人	新規入学者を募集中	【基礎となる学部】 和歌山看護学部 看護学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	12人 () []	- () []	12人 () []	- () []	12人 () []	- () []	0.83倍	0.88倍	
志願者数	- () []	- () []	- () []	- () []	12 () []	- () []	12 () []	- () []	9 () []	- () []			
受験者数	- () []	- () []	- () []	- () []	12 () []	- () []	12 () []	- () []	9 () []	- () []			
合格者数	- () []	- () []	- () []	- () []	12 () []	- () []	12 () []	- () []	8 () []	- () []			
B 入学者数	- () []	- () []	- () []	- () []	12 () []	- () []	12 () []	- () []	8 () []	- () []			
入学定員超過率 B/A	-		-		1.00		1.00		0.66				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	12 [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	8 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- (-) [-]	- (-) [-]	- [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	12 [-] (-)	24 [-] (-)					20 [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	0人	0人	平成30年度	0人	0人	
令和元年度	0人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	12人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	24人	2人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	2人	0人	就学意欲の低下(2人)
令和4年度	20人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		2人		2人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{24} = \boxed{8.33} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<和歌山看護学研究科看護学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	理論看護学	1前	2			3		1				
	看護倫理	1前	2			3		1				
	看護研究方法Ⅰ	1前	2			1		1				
	看護研究方法Ⅱ	1後	2			2						兼1
	英語文献講読	1前		2				2				兼1
	組織管理論	1後		2		2	1					
	看護教育論	1後		2		2		1				兼1
	ヘルスケアシステム論	1後		2		3						
	国際関係論	2前		2		1						兼1
小計(9科目)			-	8	10	0	7	1	3	0	0	兼4
専門科目	マネジメント学 包括ケア領域	包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	1前		2		2	1				
		包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	1後		2		3	1				
		包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	1	0	0	0
	実践学領域 包括ケア	包括ケア実践学特論Ⅰ	1前		2		2					
		包括ケア実践学特論Ⅱ	1後		2		2					
		包括ケア実践学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケア実践学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)	-	0	8	0	2	1	1	0	0	0
	教育学領域 包括ケア	包括ケア教育学特論Ⅰ	1前		2		3					
		包括ケア教育学特論Ⅱ	1後		2		3					
		包括ケア教育学演習Ⅰ	1後		2		3	1				
		包括ケア教育学演習Ⅱ	2前		2		3	1				
		小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	0	0	0	0
特別研究(修士論文)	2通	8			7	3	2				0	
小計(1科目)	-	8	0	0	7	3	2	0	0	0	0	
合計(22科目)	-	16	34	0	7	3	3	0	0	0	兼4	
卒業要件及び履修方法												
必修科目8単位、共通科目の選択科目4単位、専門科目各領域の選択科目を8単位、選択領域以外の専門科目の特論Ⅰを2単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ修士の学位論文審査および最終試験に合格すること。												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	理論看護学	1前	2			2	1					兼1	
	看護倫理	1前	2			1	1					兼2	
	看護研究方法Ⅰ	1前	2			1	1						
	看護研究方法Ⅱ	1後	2			2	1	1				兼1	
	英語文献講読	1前		2				2				兼1	
	組織管理論	1後		2		1	1					兼2	
	看護教育論	1後		2		1	1	1				兼2	
	ヘルスケアシステム論	1後		2		2	1	1				兼2	
	国際関係論	2前		2		1			2			兼1	
小計(9科目)			-	8	10	0	5	5	3	0	0	兼8	
専門科目	マネジメント学 包括ケア領域	包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	1前		2		2	2					兼1
		包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	1後		2		2	2					兼1
		包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	1後		2		2	2	1				兼1
		包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	2前		2		2	2	1				兼1
		小計(4科目)	-	0	8	0	2	2	1	0	0	0	兼1
	実践学領域 包括ケア	包括ケア実践学特論Ⅰ	1前		2		2	2					
		包括ケア実践学特論Ⅱ	1後		2		2	2					
		包括ケア実践学演習Ⅰ	1後		2		2	5					
		包括ケア実践学演習Ⅱ	2前		2		2	5					
		小計(4科目)	-	0	8	0	2	5	0	0	0	0	
	教育学領域 包括ケア	包括ケア教育学特論Ⅰ	1前		2		3	2					
		包括ケア教育学特論Ⅱ	1後		2		3	2					
		包括ケア教育学演習Ⅰ	1後		2		3	2	1				
		包括ケア教育学演習Ⅱ	2前		2		3	2	1				
		小計(4科目)	-	0	8	0	3	2	1	0	0	0	
特別研究(修士論文)	2通	8			7	6					兼1		
小計(1科目)	-	8	0	0	7	6	0	0	0	0	兼1		
合計(22科目)	-	16	34	0	8	9	4	0	0	0	兼8		
卒業要件及び履修方法													
必修科目8単位、共通科目の選択科目4単位、専門科目各領域の選択科目を8単位、選択領域以外の専門科目の特論Ⅰを2単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ修士の学位論文審査および最終試験に合格すること。													

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	理論看護学	1前	2			3		1				
	看護倫理	1前	2			3						
	看護研究方法Ⅰ	1前	2			1		1				
	看護研究方法Ⅱ	1後	2			2					兼1	
	英語文献講読	1前		2				2			兼1	
	組織管理論	1後		2		2	1					
	看護教育論	1後		2		2		1			兼1	
	ヘルスケアシステム論	1後		2		3						兼1
	国際関係論	2前		2		1						兼1
小計(9科目)		-	8	10	0	7	1	3	0	0	兼4	
専門科目	マナジメント学 領域 包括ケア 学	包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	1前		2		2	1				
		包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	1後		2		3	1				
		包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)		-	0	8	0	3	1	1	0	0
	実践学領域 包括ケア	包括ケア実践学特論Ⅰ	1前		2		2					
		包括ケア実践学特論Ⅱ	1後		2		2					
		包括ケア実践学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケア実践学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)		-	0	8	0	2	1	1	0	0
	教育学領域 包括ケア	包括ケア教育学特論Ⅰ	1前		2		3					
		包括ケア教育学特論Ⅱ	1後		2		3					
		包括ケア教育学演習Ⅰ	1後		2		3	1				
包括ケア教育学演習Ⅱ		2前		2		3	1					
小計(4科目)			-	0	8	0	3	1	0	0	0	0
特別研究(修士論文)	2通	8			7	3	2				0	
小計(1科目)		-	8	0	0	7	3	2	0	0	0	
合計(22科目)		-	16	34	0	7	3	3	0	0	兼4	
卒業要件及び履修方法												
必修科目8単位、共通科目の選択科目4単位、専門科目各領域の選択科目を8単位、選択領域以外の専門科目の特論Ⅰを2単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ修士の学位論文審査および最終試験に合格すること。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	理論看護学	1前	2			3		1				
	看護倫理	1前	2			2						兼2
	看護研究方法Ⅰ	1前	2			1		1				
	看護研究方法Ⅱ	1後	2			2					兼1	
	英語文献講読	1前		2				2			兼1	
	組織管理論	1後		2		2	1					兼1
	看護教育論	1後		2		2		1			兼1	
	ヘルスケアシステム論	1後		2		2			1			兼1
	国際関係論	2前		2		1						兼1
小計(9科目)		-	8	10	0	6	1	3	0	0	兼7	
専門科目	マナジメント学 領域 包括ケア 学	包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	1前		2		2	1				
		包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	1後		2		3	1				
		包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)		-	0	8	0	3	1	1	0	0
	実践学領域 包括ケア	包括ケア実践学特論Ⅰ	1前		2		2					
		包括ケア実践学特論Ⅱ	1後		2		2					
		包括ケア実践学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
		包括ケア実践学演習Ⅱ	2前		2		2	1	1			
		小計(4科目)		-	0	8	0	2	1	1	0	0
	教育学領域 包括ケア	包括ケア教育学特論Ⅰ	1前		2		2					
		包括ケア教育学特論Ⅱ	1後		2		2					
		包括ケア教育学演習Ⅰ	1後		2		2	1	1			
包括ケア教育学演習Ⅱ		2前		2		2	1	1				
小計(4科目)			-	0	8	0	2	1	1	0	0	0
特別研究(修士論文)	2通	8			6	3	3				0	
小計(1科目)		-	8	0	0	6	3	3	0	0	0	
合計(22科目)		-	16	34	0	6	3	3	0	0	兼7	
卒業要件及び履修方法												
必修科目8単位、共通科目の選択科目4単位、専門科目各領域の選択科目を8単位、選択領域以外の専門科目の特論Ⅰを2単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ修士の学位論文審査および最終試験に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

・やむを得ない事由等の理由により教員の変更があった為、専任教員、兼任・兼担欄の人数等を変更。

専任教員変更科目

看護倫理	旧：「教授3」	新：「教授2」
組織管理論	旧：「教授2、准教授1」	新：「教授1、准教授1」
ヘルスケアシステム論	旧：「教授3」	新：「教授2、講師1」
包括ケア教育学特論Ⅰ	旧：「教授3」	新：「教授2」
包括ケア教育学特論Ⅱ	旧：「教授3」	新：「教授2」
包括ケア教育学演習Ⅰ	旧：「教授3、准教授1」	新：「教授2、准教授1、講師1」
包括ケア教育学演習Ⅱ	旧：「教授3、准教授1」	新：「教授2、准教授1、講師1」
特別研究(修士論文)	旧：「教授7、准教授3、講師2」	新：「教授6、准教授3、講師3」

兼任・兼担欄変更科目

看護倫理、組織管理論、ヘルスケアシステム論

【令和4年度】

・昇任人事、教育内容の充実を図る為、専任教員、兼任・兼担欄の人数等を変更。

専任教員変更科目

理論看護学	旧：「教授3、講師1」	新：「教授2、准教授1」
看護倫理	旧：「教授3」	新：「教授1、准教授1」
看護研究方法Ⅰ	旧：「教授1、講師1」	新：「教授1、准教授1」
看護研究方法Ⅱ	旧：「教授2」	新：「教授2、准教授1、講師1」
英語文献講読	旧：「講師2」	新：「准教授2」
看護教育論	旧：「教授2、講師1」	新：「教授1、准教授1、講師1」
ヘルスケアシステム論	旧：「教授2、講師1」	新：「教授2、准教授1、講師1」
国際関係論	旧：「教授1」	新：「教授1、講師2」
包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	旧：「教授2、准教授1」	新：「教授2、准教授2」
包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	旧：「教授3、准教授1」	新：「教授2、准教授2」
包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授2、准教授2、講師1」
包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授2、准教授2、講師1」
包括ケア実践学特論Ⅰ	旧：「教授2」	新：「教授2、准教授2」
包括ケア実践学特論Ⅱ	旧：「教授2」	新：「教授2、准教授2」
包括ケア実践学演習Ⅰ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授2、准教授5」
包括ケア実践学演習Ⅱ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授2、准教授5」
包括ケア教育学特論Ⅰ	旧：「教授2」	新：「教授3、准教授2」
包括ケア教育学特論Ⅱ	旧：「教授2」	新：「教授3、准教授2」
包括ケア教育学演習Ⅰ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授3、准教授2、講師1」
包括ケア教育学演習Ⅱ	旧：「教授2、准教授1、講師1」	新：「教授3、准教授2、講師1」
特別研究(修士論文)	旧：「教授6、准教授3、講師3」	新：「教授7、准教授6」

兼任・兼担欄変更科目

理論看護学、看護倫理、組織管理論、看護教育論、ヘルスケアシステム論、包括ケアマネジメント学特論Ⅰ、包括ケアマネジメント学特論Ⅱ、包括ケアマネジメント学演習Ⅰ、包括ケアマネジメント学演習Ⅱ、特別研究(修士論文)

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	17 科目	0 科目	22 科目	5 科目 []	17 科目 []	0 科目 []	22 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{22} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	(貸与者：日本赤十字社和歌山医療センター借用機関 2020年4月から20年間 1,361.77㎡ n/c		
	校舎敷地	37,384㎡	0㎡	0㎡	37,384㎡			
	運動場用地	10,503㎡	0㎡	0㎡	10,503㎡			
	小 計	47,887㎡	0㎡	0㎡	47,887㎡			
	そ の 他	4,597㎡	0㎡	0㎡	4,597㎡			
	合 計	52,484㎡	0㎡	0㎡	52,484㎡			
(2) 校 舎		専 用 54,428 53,093㎡ (54,428㎡)	共 用 0㎡ (0㎡)	共用する他の学校等の専用 0㎡ (0㎡)	計 54,428 53,093㎡ (54,428㎡)	大学全体の定員増に伴う校舎増 (3)		
(3) 教 室 等		講 義 室 10 7室	演 習 室 9 6室	実験実習室 3 2室	情報処理学習施設 0室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)	整備に伴う教室等増 (3)	
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 和歌山看護学部看護学科			室 数 32 26 室	整備に伴う研究室増 (3)		
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、雑誌、電子ジャーナル増加分は新規購入による。(3) 電子ジャーナルは大学全体での契約であり、全キャンパスで閲覧可能。
	和歌山看護学部	4,909 [260] (7,691 [73]) (5,424 [-73])	101 [6] (99 [14]) (-76 [-7])	4,430 [2,949] 4,331 [-2,889] 4,430 [2,949] (4,331 [-2,889])	148 (249) (-186)	938 (484)	46 (46)	
	計	4,909 [260] (7,691 [73]) (5,424 [-73])	101 [6] (99 [14]) (-76 [-7])	4,430 [2,949] 4,331 [-2,889] 4,430 [2,949] (4,331 [-2,889])	148 (249) (-186)	938 (484)	46 (46)	
(6) 図 書 館		面 積 150.4 424.50㎡	閱 覧 座 席 数 44 36	収 納 可 能 冊 数 5,250 4,500				
(7) 体 育 館		面 積 5,678㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	15,000千円	15,000千円
	共同研究費等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	40,000千円	25,000千円	25,000千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,850千円	1,600千円	1,600千円	1,550千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京医療保健大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号					
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療保健学部		280	—	1,120		1.00	0.86				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.15	1.24		平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療栄養学科	4	100	—	400	学士(栄養学)	0.90	0.65		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.94	0.66		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
東が丘・立川看護学部		200	—	200		—	—				令和2年度より募集停止
看護学科	4	200	—	200	学士(看護学)	—	—		平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
									平成28年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
東が丘看護学部		100	—	300							
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.18	1.16		令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
立川看護学部		100	—	300							
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.18	1.14		令和2年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
千葉看護学部		100	—	400							
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.11	1.10		平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	
和歌山看護学部		90	—	360							
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.14	1.08		平成30年度	雄湊キャンパス 和歌山県和歌山市東坂ノ上丁3番地 日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
大学院											
医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	25	—	50	修士(看護マネジメント学) (感染制御学) (医療栄養学) (医療保健情報学) (助産学) (周手術医療安全学)	1.14	1.12		平成19年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療保健学専攻 (博士課程)	3	4	—	12	博士(感染制御学) (周手術医療安全学)	2.53	2.58		平成21年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(看護学) (助産学)	1.08	1.13		平成25年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
看護学研究科 看護学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(成育看護学) (地域環境保健学)	0.17	0.00		平成26年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(看護学)	0.83	0.66		令和2年度	日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
千葉看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	1.25	1.38		令和3年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	准教授	北端 恵子 (59) <令和2年4月> 修士(保健看護学)
		包括ケア実践学演習Ⅰ 包括ケア実践学演習Ⅱ
専任	准教授	高村 昌枝 (55) <令和2年4月> 修士(看護マネジメント学)
		組織管理論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ
専任	准教授	辻 久美子 (47) <令和2年4月> 修士(保健学)
		包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ
専任	講師	近藤 純子 (44) <令和2年4月> 博士(保健学)
		英語文献講読 看護教育論
専任	講師	武内 龍伸 (41) <令和2年4月> 修士(保健学)
		看護研究方法Ⅰ 英語文献講読

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	准教授	北端 恵子 (59) <令和2年4月> 修士(保健看護学)
		包括ケア実践学演習Ⅰ 包括ケア実践学演習Ⅱ
専任	准教授	高村 昌枝 (55) <令和2年4月> 修士(看護マネジメント学)
		組織管理論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ
専任	准教授	辻 久美子 (47) <令和2年4月> 修士(保健学)
		包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ
専任	講師	近藤 純子 (44) <令和2年4月> 博士(保健学)
		英語文献講読 看護教育論
専任	講師	武内 龍伸 (41) <令和2年4月> 修士(保健学)
		看護研究方法Ⅰ 英語文献講読

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	准教授	北端 恵子 (60) <令和2年4月> 修士(保健看護学)
		包括ケア実践学演習Ⅰ 包括ケア実践学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	高村 昌枝 (56) <令和2年4月> 修士(看護マネジメント学)
		組織管理論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	辻 久美子 (48) <令和2年4月> 修士(保健学)
		包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	講師	近藤 純子 (45) <令和2年4月> 博士(保健学)
		英語文献講読 看護教育論 特別研究(修士論文)
専任	講師	武内 龍伸 (42) <令和2年4月> 修士(保健学)
		看護研究方法Ⅰ 英語文献講読 ヘルスケアシステム論 特別研究(修士論文)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	南郷 泰士 (44) <令和4年4月> 博士(看護学)
		理論看護学 看護研究方法Ⅰ ヘルスケアシステム論 包括ケア教育特論Ⅰ 包括ケア教育特論Ⅱ 包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	教授	土井 一浩 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	専任	入駒 一美 (82) <令和4年4月> 修士(児童学)
		組織管理論
専任	教授	北得 美佐子 (52) <令和4年4月> 修士(看護学)
		包括ケア教育特論Ⅰ 包括ケア教育特論Ⅱ 包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	北端 恵子 (61) <令和2年4月> 修士(保健看護学)
		包括ケア実践学特論Ⅰ 包括ケア実践学特論Ⅱ 包括ケア実践学演習Ⅰ 包括ケア実践学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	高村 昌枝 (57) <令和2年4月> 修士(看護マネジメント学)
		組織管理論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	辻 久美子 (49) <令和2年4月> 修士(保健学)
		包括ケア教育特論Ⅰ 包括ケア教育特論Ⅱ 包括ケア教育学演習Ⅰ 包括ケア教育学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	近藤 純子 (46) <令和2年4月> 博士(保健学)
		看護研究方法Ⅱ 英語文献講読 看護教育論 包括ケア実践学特論Ⅰ 包括ケア実践学特論Ⅱ 包括ケア実践学演習Ⅰ 包括ケア実践学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
専任	准教授	武内 龍伸 (43) <令和2年4月> 修士(保健学)
		看護研究方法Ⅰ 英語文献講読 ヘルスケアシステム論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		名越 長江 (70) <令和4年4月> 修士(学術)
	兼任 講師	理論看護学 組織管理論 ヘルスケアシステム論 看護教育論 包括ケアマネジメント学特論Ⅰ 包括ケアマネジメント学特論Ⅱ 包括ケアマネジメント学演習Ⅰ 包括ケアマネジメント学演習Ⅱ 特別研究(修士論文)
	兼任 講師	中山 恭伸 (49) <令和4年4月> 高等学校卒
		看護倫理

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・英語文献講読を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
(旧：城山兼任講師 新：近藤兼任講師)

【令和3年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - ・教授：松月みどり 体調不良による退職により、ヘルスケアシステム論の担当を武内龍伸講師、包括ケア教育学演習Ⅰ、包括ケア教育学演習Ⅱの担当を宇田賀津講師に変更。なお、看護倫理、組織管理論、包括ケア教育学特論Ⅰ、包括ケア教育学特論Ⅱ、特別研究（修士論文）については、一人で担当している科目は無く支障はない。
- 担当授業科目に関する変更
 - 教育の充実を図るために、以下の専任教員の科目を追加。※昨年度時点で記載漏れ
 - ・特別研究（修士論文） 原 政代、北端恵子、高村 昌枝、辻 久美子、近藤純子、武内龍伸、宇田賀津
- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・看護倫理を担当する専任教員1名が体調不良により辞退となった為、新たに兼任講師2名採用。
(旧：松月教授 新：仲井兼任講師、黒澤兼任講師)
 - ・組織管理論を担当する専任教員1名が体調不良により辞退となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：松月教授 新：細川兼任講師)
 - ・ヘルスケアシステム論を担当する専任教員1名が体調不良により辞退となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：松月教授 新：細川兼任講師)

【令和4年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - ・教授：名越民江 定年による退職。一人で担当している科目は無く、後任の教授を採用するため講義に支障はない。
 - ・教授：原 政代 定年による退職。一人で担当している科目は無く、後任の教授を採用するため講義に支障はない。
 - ・教授：南部泰士 原教授の後任として新規採用。
 - ・教授：土井一浩 名越教授の後任として新規採用。
- 専任教員の職位に関する変更
 - ・准教授：近藤純子、武内龍伸、宇田賀津
- 担当授業科目に関する変更
 - 教育の充実を図るために、以下の専任教員を追加。
 - ・教授：北得美佐子、入駒一美
 - ・准教授：吉村公一、鈴木里美、甲村朋子
 - ・講師：串橋裕子、福井早苗、栗原麗羅、西井崇之
- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・理論看護学を担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・看護倫理を担当する専任教員1名が体調不良により辞退となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：仲井兼任講師 新：中山兼任講師)
 - ・組織管理論を担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・ヘルスケアシステム論を担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・看護教育論を担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・包括ケアマネジメント学特論Ⅰを担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・包括ケアマネジメント学特論Ⅱを担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・包括ケアマネジメント学演習Ⅰを担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・包括ケアマネジメント学演習Ⅱを担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)
 - ・特別研究（修士論文）を担当する専任教員1名が定年により退職となった為、新たに兼任講師1名採用。
(旧：名越教授 新：名越兼任講師)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
7	3	3	0	13	0	8	9	4	0	21	0
(7)	(3)	(3)	(0)	(13)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
6	7	0				6	7	0			
(6)	(7)	(0)				(6)	(7)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
8	9	4	0	21	0	8	9	4	0	21	0
[1]	[6]	[1]	[0]	[8]	[0]	[1]	[6]	[1]	[0]	[8]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
6	7	0				6	7	0			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{21}{13} = \boxed{161.53} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{3}{21} = \boxed{14.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	松月 みどり	R3.3	必修	看護倫理	②	R3.3.31付け 体調不良のため辞任 (3)
				選択	組織管理論	②	
				選択	ヘルスケアシステム論	①、②	
				選択	包括ケア教育学特論Ⅰ	①	
				選択	包括ケア教育学特論Ⅱ	①	
				選択	包括ケア教育学演習Ⅰ	①	
				選択	包括ケア教育学演習Ⅱ	①	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	2	科目	必修	1	科目
		選択	7	科目	選択	5	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	6	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	2	科目	必修	1	科目
		選択	7	科目	選択	5	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	6	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D)+(F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{1}{13} = 7.69\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	名越 民江	必修	理論看護学	①	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)			
			選択	組織管理論	①				
			選択	看護教育論	①				
			選択	包括ケアマネジメント学特論Ⅰ	①				
			選択	包括ケアマネジメント学特論Ⅱ	①				
			選択	包括ケアマネジメント学演習Ⅰ	①				
			選択	包括ケアマネジメント学演習Ⅱ	①				
2	教授	原 政代	必修	特別研究(修士論文)	①	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)			
			選択	ヘルスケアシステム論	①				
			選択	包括ケア教育学特論Ⅰ	①				
			選択	包括ケア教育学特論Ⅱ	①				
			選択	包括ケア教育学演習Ⅰ	①				
			選択	包括ケア教育学演習Ⅱ	①				
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
2	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	11 科目	選択	11 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	14 科目	計	14 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

①松月みどり教授の辞任について、当該教員の担当科目が担当可能な専任教員が担当するため授業に支障はない。
 また、一部科目については兼任教員を採用する。
 なお、教員交代に係る学生への周知については、セメスター開始時のガイダンス、シラバス等で周知を行った。

②名越民江教授の定年による退職について、当該教員の担当科目が担当可能な専任教員が担当するため授業に支障はない。
 また、一部科目については専任教員を採用する。
 なお、教員交代に係る学生への周知については、セメスター開始時のガイダンス、シラバス等で周知を行った。

③原政代教授の定年による退職について、当該教員の担当科目が担当可能な専任教員が担当するため授業に支障はない。
 また、一部科目については専任教員を採用する。
 なお、教員交代に係る学生への周知については、セメスター開始時のガイダンス、シラバス等で周知を行った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画		
届出時 (令和2年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	遵守事項	平成30年4月1日施行の大学就業規則附則8の改正により、定年の適用を平成34年3月31日まで猶予することを規定している。	履行済	猶予期間経過後に退職することとなる教員の後任補充については、従前どおり業績及び年齢等を考慮した教員採用計画に基づき、計画的な人事(例えば、50歳代准教授のうちから、厳格な審査を実施し教授への昇任、学外公募による教授採用)を予定している。
設置計画履行状況調査時 (令和3年)	該当なし		該当なし		該当なし
設置計画履行状況調査時 (令和4年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	<p>教育の充実を図るため、学外公募により教授採用した。また、業績及び年齢等を考慮した教員採用計画に基づき、厳格な審査を実施し、准教授から教授、講師から准教授への昇任を行い、年齢構成の改善に努めている。</p> <p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は、完成年度を終えて退職となる。一部教員の退職後は期間を定めた契約のもと、若手教員の後進の育成を行う。退職後は60代以下の教員を積極的に採用する予定であるため、教育研究の活性化と継続性は確保される。</p> <p>若手教員の育成にあたっては、本学の教員資格審査の際の基準となる教育業績及び研究業績の両面から行う。</p>	履行中	

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<和歌山看護学研究科看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科FD・SD委員会規程を制定し、和歌山看護学研究科FD・SD委員（委員6名）を設置している。 ※東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科FD・SD委員会規程（添付資料）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 年4回程度開催予定。（令和4年5月1日現在未開催）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容・方法の改善に関する事項 ・ 研究推進体制の整備に関する事項 ・ 各種研修会、研究会の実施に関する事項 ・ 外部研究費の導入の推進に関する事項 ・ 職員研修会等の実施に関する事項 ・ その他、FD・SDに関する事項 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容・方法の改善についての研修会 ・ 研究推進体制の整備についての研修会 <p>b 実施方法 学内研修会</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 令和4年5月1日現在未開催。令和4年度開催予定。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 令和4年5月1日現在、以下のとおり実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度「学生による授業評価実施」計画 実施時期：各セメスター最終授業日（予定） 実施方法：LMSシステムを使用 <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 令和4年5月1日現在、以下のとおり実施予定。 教員に対しては各教員に回覧できるように結果を報告し、授業改善等に努めていただくとともに、学生に対しては館内にスペースを設け、結果を掲示する。</p> <p>(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）</p>

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>本学学則第4条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。</p> <p>(注)第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。</p> <p>2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。</p> <p>3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。</p> <p>自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。</p> <p>本学においては、平成20年度に開学後初となる自己点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめ、ホームページに公表。平成21年度以降毎年度、自己点検・評価を実施し、公表している。</p> <p>平成30年度には、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定。評価結果は平成31年4月5日にホームページに公表済。</p> <p>なお、認定の期間は、平成31年4月1日から令和8年3月31日までとされている。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <p>・ 令和3年度点検・評価報告書については、令和4年6月1日 公表予定。</p> <p>b 公表方法</p> <p>点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認後、ホームページ上に公開している。</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>・ 令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書(令和4年度)</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトへ公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科 FD・SD 委員会規程

(設 置)

第 1 条 東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科における教職員の資質の維持・向上を図るため、和歌山看護学研究科 FD・SD 委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 授業内容・方法の改善に関する事項
- (2) 研究推進体制の整備に関する事項
- (3) 各種研修会、研究会の実施に関する事項
- (4) 外部研究費の導入の推進に関する事項
- (5) 職員研修会等の実施に関する事項
- (6) その他、FD・SD に関する事項

(構 成)

第 3 条 委員会は次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 和歌山看護学研究科教授会において任命する研究科担当専任教員。
- (2) 和歌山事務部長または和歌山事務部長補佐
- (3) 研究科長は必要に応じて出席することができる。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(委員長等)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し議長となる。

(事 務)

第 5 条 委員会に関する事務は、和歌山事務部で行う。

附 則 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。